

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	3670200140
法人名	株式会社 総合医療
事業所名	グループホーム そよかぜ
所在地	徳島県鳴門市瀬戸町明神字上本城77-2 (電話) 088-683-7888

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 9月 2日

【情報提供票より】(平成19年 8月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤 9 人, 非常勤 人, 常勤換算 9 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 3,000円 , その他実費	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(8月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87 歳	最低	84 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・健康保険鳴門病院 ・佐賀歯科医院
---------	-------------------

徳島県 グループホームそよかぜ 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

季節ごとに変化する小鳴門の海を背景に、平成12年にデイサービスセンターと共に開設された1ユニットのグループホームである。管理者と職員との関係は良好で、利用者に対するケアもきめ細やかに提供され、温かい馴染みの関係が築かれており、利用者の穏やかで明るい笑顔が見られる。

【重点項目への取り組みの状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「重要事項説明書」の中に利用者の「権利・義務」の項目が設けられ、きちんと明示されていた。「運営理念」は階段踊り場に掲示されているが、ホーム開設当初のものであり地域密着型サービスとしての理念を作成するまでには至っていない。また、身体拘束に関する同意書も作成するまでには至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員が時間をかけて話し合い作成しており、外部評価を改善の指標にし、利用者へのケアの質の向上に繋がるよう努力されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の構成メンバーは地域包括支援センター職員・地域民生委員・老人会会長・町内会会長・利用者及び家族・ホーム職員である。地域の社会資源としての役割を担えるよう、また、利用者も地域の行事に参加し、連携を深めるよう話し合いがなされている。しかしながら現在までに1回のみ開催である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者や家族の意見、希望や情報収集をし、それを反映できるよう細やかに配慮している。折々に「そよかぜ新聞」を発行し、ホームでの暮らしぶりを伝えるなど利用者や家族の絆を大切にしている。また、市の介護相談員が来訪し利用者の「声」を聴いたり、介護保険課職員との話し合い等で外部の視点を大切にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は地域の秋祭りや、小学校の運動会等に参加している。また、併設のデイサービスセンターの催しに参加してデイ利用者とも馴染みの関係ができています。この夏は市中心部での恒例の「阿波踊り」を楽しみ、近くで観ていた方達とも交流し、グループホームへの理解を深める取り組みがなされている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に作成された理念が掲げられているが、地域密着型サービスとしての理念の見直しがなされていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域での生活の継続的支援や地域との関係強化を理念の柱とするよう見直しをされたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は共に理念の実践に向け取り組んでおり、家族的なケアがなされているが、地域密着型サービスとしての理念の共有が見られない。	○	今後、運営理念の見直しを行い、理念の共有について話し合われたい。また、認知症ケアのプロとして日々のケアに取り組まれ、利用者の尊厳を今以上に高める努力の継続に期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は、地域の行事(阿波踊り、秋祭り、小学校の運動会等)に参加し、併設のデイサービス利用者も気軽にホームに立ち寄り交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、前回、改善事項であった利用者の権利・義務も契約書にきちんと記され、サービスの質の向上に努めている。しかし地域密着型サービスとしての運営理念の作成や身体拘束の同意書の書式を作成するまでには至っていない。	○	身体拘束に関する同意書の書式が用意されていない。早急に準備されたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を現在までに1回しか開催できていない。会議では意見交換をして連携に努めている。	○	今後、2ヵ月に1回開催し、検討、懸案事項について報告しあい実績を積み上げることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員が月2回訪問し利用者と語らい相談を受けている。また、年2回、市介護保険課職員を交えた報告会が開かれており、市との連携は十分にされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時には現状報告をし、状態に変化があれば管理者が家族の元へ出向き対応について話し合っている。金銭管理は利用者個々の出納簿に記入しレシートも添付してある。しかし、家族の方の確認印やサインがされていない。	○	個々の金銭出納簿に家族の確認のサインや印がなされていないものが一部見られたので、報告時必ず確認してもらい、サインや印を頂く事が求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には訪問時や手紙等で意見や要望を問いかけている。また、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職が少なく、利用者、家族と深い馴染みの関係ができており、とても家庭的であり、なおかつ家族的なケアがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には計画的な研修の機会が確保されている。月1回開催されるデイサービス職員との合同の勉強会で受講内容を報告し、共に研修や事例検討を行っている。しかし、報告書に内容を確認した職員の確認印やサインがされていなかった。	○	研修の報告書に内容を確認した職員の印(サイン)がないので、確認印を押す事が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、研修会等に参加しているが、事業者間の交流があまりなされていない。	○	運営者は、「質の確保」、を旨として管理者、職員が同業者と交流する機会を持てるよう、取組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの利用を希望している方には職員が訪問して説明を行っている。デイサービスの利用からホームへの理解を深めてもらい、本人、家族の意向に添ってゆっくりと利用に繋げて行くよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	要介護度の高い方が多く食事作りは職員の手による。しかし盛り付けは出来る方もおられ、協働しながら和やかな生活ができています。また、夜勤時等には「たいへんだね」「有難う」と、いたわりや励ましをもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方にはさり気なく利用者の心に寄り添い、関係者が意見を出し話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らせるよう、本人、家族の要望を聞き、医師等の意見を含め職員全員で話し合い、プランの作成に活かしている。作成された介護計画は、本人、家族に説明しているが、同意の署名、確認印をもらっていない。また、介護計画を家族に渡すまでには至っていない。	○	早急に同意を得、署名や印をしていただき、家族に渡すようにされたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとの見直しをおこなっている。また、利用者の状態に変化が見られた時にはその都度計画の見直しをしている。見直された介護計画も、本人、家族に説明しているが、同意の署名、確認印をもらっておらず、介護計画を渡すまでには至っていない。	○	見直された介護計画も、本人・家族に説明し、同意の確認印と、計画を渡すようにされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や外出等の希望や要望があれば、柔軟に対応できるように準備を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向に合わせて受診に応じている。また、週2回の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する利用者や終末期の医療のあり方については、関係者とよく話し合っており、全員で方針を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や思いに配慮し、職員が寄り添い支えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に参加する利用者はいないが、盛り付けやテーブルを拭く等楽しくされている。また、職員は利用者と一緒に同じ食事をとり、楽しい雰囲気ときめ細やかな支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴出来るようにしている。一番風呂を好まれる方が多いため、ローテーションを組みトラブルが起きないように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮してもらえよう、少ない人数ではあるが野菜作りを一緒にしてもらったり、貼り絵をして、リビングや廊下に飾っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホーム周辺を散歩し、職員が市役所や病院へ出かける時には利用者も一緒にドライブをし、気分転換をはかっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に施錠はされていない。しかし、ホームが2階にあり、2階階段のドアには転落の危険防止のため施錠がされている。	○	職員の見守りの方法を見直し、利用者の気分や状態をきめ細かく観察する事で安全を確保した鍵をかけないケアがなされるよう期待します。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て火災や地震、水害時のための避難訓練を年2回おこなっている。また、地域の消防団にも協力をお願いしている。非常用食料や備品も準備され、緊急連絡網も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を把握している。利用者の状態に合わせてきざみ食、ミキサー食等の工夫がなされている。しかし、専門的な観点からの支援がなされていない。	○	併設のデイサービスの調理師により大まかに栄養摂取量は把握されているが、栄養の専門家に時々チェックしてもらうなど工夫される事が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小鳴門の海が見渡せるリビングには季節の花があり、大きなソファでゆったりと過ごせる。廊下のテーブルの下に鈴虫が飼育され、涼やかな音色をきかせている。また、玄関前には畑があり、季節の野菜などが利用者と共に作られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の持ち物は少ないが、その方の好みによりベッドや布団を使用し、居心地が良く、安心して過ごせるよう配慮されている。		